

令和4年度 第4回久御山町上下水道事業経営審議会 議事要旨

日 時	令和5年2月1日（水） 14:00～16:00
場 所	久御山町役場5階 会議室51
次 第	1 開会 2 会長挨拶 3 議事 (1) 令和4年度第3回会議の概要 (2) 水道事業ビジョン（第2次）について ア 将来の事業環境 イ 投資・財政計画（収支計画） (3) 今後のスケジュールについて 4 閉会
出席者	（委員） 西垣会長、伊藤副会長、松若委員、曾和委員、水野委員、寺井委員、久保田委員、大日方委員 （事務局） 岡本事業環境部長、高山上下水道課長、奥田課長補佐、三上課長補佐、内田課長補佐、岩上係長、オリジナル設計(株)2名

会議

1 開会

- ※ 会議成立の報告
- ※ 関係人の出席の確認
- ※ 配布資料の確認

2 会長挨拶

- ・今回も前回に引き続き、今後の投資計画などに関わる議論を、経常収支や資本収支を見ながら検討いただく。

3 議事

- (1) 令和4年度第3回会議の概要について
 －事務局説明－
- (2) 水道事業ビジョン（第2次）について
 ア 将来の事業環境
 イ 投資・財政計画（収支計画）
 －事務局説明－

副会長

- ・水需要予測について、一定値ではなく、上位値、中位値、下位値の設定はしないのか。

事務局

- ・検討段階で様々な予測を行った上で、最も妥当性が高いと考えたものを掲載している。
- ・水需要予測が、最終的に収支計画の料金収入に反映されるが、料金シミュレーションが多くなれば、そこで収支計画のパターンが複数にわたってしまうため、事務局で最適と考えたものを掲載している。

副会長

- ・水需要予測は、目的を持ってやるもので、例えば上位値、水が多くなる予測は、施設規模を決めるために使い、中位値、下位値は、収入の減少を見定め、経営方針を決定するために使う。
- ・この掲載している水需要予測は、本当に当てにいつてる予測ということか。

事務局

- ・施設面で安全を見た水量の多いパターンの水需要予測も内部的には持っているが、今回掲載しているのは、経営面でのシミュレーションとなっている。
- ・新市街地整備「みなくるタウン」などの町の施策を総合的に考慮した上で、当てにいつた予測と考えている。

副会長

- ・施設規模を決めるための水需要予測も、内部的に持っているということであれば、それも掲載すればよいのではないかと思う。

事務局

- ・検討させていただく。

会長

- ・水需要予測が堅い読みとなっているかどうか、もう一度確認いただきたい。
- ・料金改定、更新投資、企業債のトレードオフの関係性について、意見、質問をいただきたい。
- ・ダウンサイジングの検討は、前回の府営水を中心とした事業統合や連携といった大きな話をもう少しブレークダウンして、久御山町の視点から見るとこうなるといった議論である。

委員

- ・直近の動力費の動向を教えてください。
- ・北浦配水場を廃止した際のサービス上の差はあるのか。

事務局

- ・動力費については、令和4年度予算においても、30%程度の増額補正を行ったところである。
- ・電気代の消費者物価指数は、2020年基準で127%となっており、今回の収支計画では、令和元年度から3年度の平均値にこれを乗じて計上している。
- ・サービス、水の供給に関しては、北浦配水場、佐古浄水場の自己水を休廃止してもまかなえる能力はあると考えている。

委員

- ・自己水廃止については、コスト面以外にも自己水源を持っている持っていない、もしくは住民のクオリティに関する嗜好の話があり、判断要素に関わってくるが、北浦配水場については、純粋にコストの問題ということになるのか。

事務局

- ・新規開発による水需要の変動も注視する必要があるが、コスト面で検討いただくことになる。

会長

- ・現状のインフレについては予測が難しいところであるが、それも念頭に置きながらシミュレーションを読んでいく必要がある。
- ・様々な選択肢が示されている中で、今回は政策としての価値判断を行っていただき、次回はコストも踏まえながら検討いただく。

委員

- ・建設負担水量が変更できないのであれば、余っている自己水を止めるのが一番効率的ということは理屈では十分納得できるが、久御山町民の感情論としては、残念だという気持ちがある。

会長

- ・京都府営水道の建設負担水量については、今も京都府で調整中ではあるが、負担が下がるのであれば上がる場所もあり、調整が進まず、時間がかかっている。

事務局

- ・議会でも地下水を残してほしいという意見はあり、本審議会の意見を踏まえて最終的に町で判断したいと考えている。
- ・建設負担水量については、過去に必要な状況があり申し込んだ経過があるが、現在も京都府に対して見直しの要望をしており、京都府の方でも今調整の検討をしている。

副会長

- ・自己水について、確かに地域の貴重な資源であると考えることが多く、我々が水に関するアンケート調査を行っても、やはりそういった意識は強く出てくる。
- ・また、自己水源があれば、水源の複数化により非常時での対応ができるという意味もある。
- ・しかしながら、今回の資料を拝見し、今後のことを考えるとコスト重視でいかざるを得ないのではないかと思う。
- ・水源の複数化という面では、京都府営水道のリスク対応が進んでおり、手厚くなってきている。
- ・コスト重視で、できる限り水道料金が上がらないような方針とするか、水道料金が上がるが自己水も府営水も共に持っていきたいという意味にするのか、町や町民の判断となる。

会長

- ・更新投資が集中している現在では、世代間の負担などを考慮しながら企業債のあり方を考える必要がある。

委員

- ・企業からの視点で言えば、コスト重視で進んでほしい。
- ・令和7年度に料金が増額改定される前提となっているが、この改定で収益が8千万円増加するのに、それでも足りないのか。
- ・苦しい経営状況で、あえて積極的な投資を打つべきなのか、我々企業では、赤字を垂

れ流しながら投資し続けることはない。

事務局

- ・令和7年度の料金改定について、現行の経営戦略に掲載しているが、その議論の中で、一度に料金改定をした場合、改定率が非常に高くなってしまうため、令和2年と7年に分けることとした。
- ・令和2年の料金改定は、財政的に余裕のない状態となっており、加えて、昨今の物価高騰等によりさらに財政は厳しい状況となっているため、令和7年度の料金改定は前提として今回記載させていただいている。
- ・投資については、現在行っているのは新規投資ではなく更新投資であり、安全安心に安定的に水を供給するという水道事業の責務を果たすためには必要な投資である。

委員

- ・現行経営戦略の時には、燃料の高騰など全く予想していなかったし、府営水道の件も見込めておらず、あの時予見できなかったことが起きているわけなので、それに見合せて計画を修正するというのはやるべきことである。
- ・料金改定に当たっては、最低限やるべきことをやってもなお資金ショートを起こすため、料金改定が必要であるというロジックにしていかなければならない。
- ・企業債の設定を見直す必要もあるし、ダウンサイジングについては、休止ならば維持費も織り込まなければならず、府営水道料金についても、保守的に見るのであれば上昇を織り込むべきであり、なるべくコストは見込んだ上で、資金ショートを起こさないよう料金改定が必要というロジックで検討できればよいと思う。
- ・その上で16.9%を上回る場合は、久御山町の皆さんに納得いただける資料が示せるか、その前提条件を置けているのかという話になる。

会長

- ・料金改定と更新投資、企業債のバランスが取れるような案を、シミュレーションを見ながら議論していきたい。
- ・更新投資を遅らせた場合の管路更新率の影響や、起債の上限を変えた場合の企業債残高の推移など、そういったことを含め、次回に資料を準備していただきたい。

副会長

- ・例えば「町民が喜んで支える水道を目指して」など、みんなで支える、みんなで作っていくというニュアンスが出るような副題を表紙に付けてはどうか。

事務局

- ・今後、収支計画の議論の結果を基に、基本目標や基本理念を検討する予定をしているが、指摘のあった「みんなで支える」という理念も踏まえて基本理念を検討し、表紙にも記載させていただきたい。

(2) 今後のスケジュールについて

－事務局説明－

4 閉会

※ 閉会の挨拶

事務局

- ・鉛製給水管改修事業の開始時期の見直しをシミュレーションに入れさせていただいたが、それにより安全・安心という側面から時期がずれるという考え方を持った。
- ・ダウンサイジングについては、直接コストに跳ね返り、水道料金の改定に結びつくこととなる。
- ・水道事業を進めていく上で、持続可能なものでなければならぬし、また、住民企業に理解してもらえるような計画を作らなければならぬと認識した。

【散会】

以 上